

Lynzo

りんぞー

Library for Your Networking ZONE

vol. 9

巻頭
座談会

歌舞伎の敷居は 高くない

解説
特集
コーナー

史実と物語の狭間—忠臣蔵—

Lynzo
名画座

『オリエント急行殺人事件』

先生が選んだ
この
一冊

『トータルで 650 点
—私の英語修業』

持留浩二先生

BUON
KYOR
NET



1 巻頭特集 座談会

「歌舞伎の敷居は高くない」

4 解説 特集コーナー「史実と物語の狭間―忠臣蔵―」

6 Lynzo名画座 『オリエント急行殺人事件』

9 先生が選んだこの一冊
『トールフルで』点―私の英語修業』 持留浩二先生

10 さぶかる！ 暦ものがたり

12 小説を旅する エドモンド・デ・アミース著『クオーレ』

14 四季を読む ―上高地の秋―

15 読んだら面白かった！『ルバイヤート』

16 Pop up lib 特集コーナー

17 開館カレンダー

Whisper
本のささやき

「俺は動くのを見たことがあるぜ、丘が」 ジャン・ジオノ『丘』

居心地の悪さを感じさせる不思議な作品です。フランスはプロヴァンス地方の小さな田園が舞台。冒頭では、風、泉、花や鳥など豊かな自然が詩的に謳われています。けれど、途中からそのイメージは一変します。自然に恵まれた平和な村が、災難が重なったことで人々は迷信に囚われ、妄想を生んでいくのです。これは、ついにその精神が狂気を帯びるようにまでなったある村人の言葉です。クライマックスでは、村人たちが、妄想から村を守るために団結して殺人まで計画してしまいます。平穏な暮らしを送っていた頃は、善良だった村人たち。その心の変わりように、人間の隠された恐ろしさを見るような気がします。

ジャン・ジオノ
1895 年誕生。小説家・随筆家・映画のシナリオライター。プロヴァンス地方に生まれ生涯この地で過ごす。主な作品は、『木を植えた男』『河は呼んでいる』など。

歌舞伎の敷居は 高くない

戦国末期、出雲阿国に始まるとされる「かぶき踊り」は、江戸時代、さまざまな禁制の網をかくぐり、庶民の娯楽芸能として定着しました。さらびやかな衣装、豪壮な決めポーズや化粧をほどこした美しい役者たちの共演は当時の江戸庶民の心をつかんで離さなかったことでしょう。今でも劇場に行くと市川海老蔵や片岡愛之助など花形役者が舞台で見得を切るとどこからともなく歓声があがります。つい格調高い伝統芸能と思われがちな歌舞伎ですが、その庶民的な面白さを紹介すべく今回、歴史学部歴史文化学科准教授・斉藤利彦先生と歴史文化学科の生徒たちに語っていただきました。

歴史学部
歴史文化学科
3 回生
斉藤利彦先生

歴史学部
歴史文化学科
3 回生
松下香奈さん

歴史学部
歴史文化学科
3 回生
松場真梨子さん

歴史学部
歴史文化学科
3 回生
小田貴史さん

役者が台詞を
覚えていない？

斉藤先生 ●「梨園」といわれ、一般社会とかけ離れた存在として見られがちな歌舞伎の世界ですが、みなさんはどのようなイメージを持っていますか？

松下さん ●基礎知識がないと理解できなくて、楽しめない高尚な伝統芸能という印象です。

松場さん ●私も同じです。隈取りとか派手な化粧をしているから表情が読み取りにくいですし、決めポーズの意味もわからない……。私たちが行っても楽しめない気がして、敬遠してしまっています。

斉藤先生 ●その決めポーズのことを「見得をする」あるいは「見得を切る」といいます。

小田さん ●見る機会がなかったのですが、印象はあまり持っていないです。ただ、最近、テレビで若手の歌舞伎俳優を見かけることが多くなってきたな、とは思っています。

斉藤先生 ●やはりみなさん、あまり興味がない（笑）。歌舞伎はもとも庶民が楽しむために上演されていた芸能なんです。江戸時代には、今という劇団四季のミュージカルや

劇団新感線の劇と同じレベルです。

松下さん ● えっ!? 四季のミュージカルは観に行くことがありますか、歌舞伎がそれと同じなんて到底思えないです。とくに台詞が……。

斉藤先生 ● 確かに。同時解説してくれるガイドを受付で貸出しているのですが、関東ではよく利用されています。関西ではあまり流行っていない。そうそう、昔から自分の台詞しか覚えていない役者さんなんて、相手役がどんな台詞を言っているのかわからない人もいます。

松場さん ● ええ!? そんなことアリなんですか?!

小田さん ● 信じられない! 観客だって許さないんじゃないですか?

斉藤先生 ● みなさんも台詞が聞き取れないと言っていましたよね?

通の観客でも、台詞が聞き取れている人がどれだけいるかは謎です。長年劇場に通っているご老人がある日突然、「この話は心中話だったと初めて知ったわ」と言われることもしばしばありますよ(苦笑)。

松下さん ● 話の筋もわからないのに、何を楽しく行くんですか?

斉藤先生 ● 不思議に思うのも無理はないですね。では歌舞伎の魅力を少しご紹介しましょう。

現代の演劇にはない歌舞伎の魅力

斉藤先生 ● 歌舞伎は西洋発祥の近代演劇と根本から異なっています。近代演劇では役者は登場人物になりきらないといけないし、進行も必ず台本にそって進めますよね。しかし、歌舞伎は同じ役でも役者ごとにまったく違う色を出しますし、ストーリーと無関係なことをすることもあります。たとえば、大役者の孫の襲名披露公演だったとします。その役者と孫がある見せ場で、二人とも舞台の上に立つ場面、芝居を中断し「このたび〇〇を襲名することになりました孫の〇〇です」といきなり二人揃って頭を下げて襲名披露をしても、客はそれを拍手や歓声で迎えます。

松場さん ● すごくアットホームですね(笑)。

松下さん ● 普通の演劇ではありえないです! 劇が終わった後なら考えられなくてもですけど……。

小田さん ● 役者さんとお客さんの距離が近くて、親近感が湧きますね。

斉藤先生 ● そうですね、距離が近いというのはいい表現かも知れません。先ほど松下さんから「何を楽

しみに見に来るのか」と質問がありました。ひとつはこの親近感を感じに来るのだと思います。上演中に「よっ! 成田屋!!」など、かけ声をかける観客がいますが、そんな声援が許されるのも歌舞伎ならではのですね。

松場さん ● そういえば、普通の劇では上演後のスタンディングオベーションはありますが、上演中は静かにするのが常識ですもんね。

斉藤先生 ● もちろん役者や、役者の演技を見に来る人はいませんが、大道具や場面転換などの裏方作業、きらびやかな衣装を見に来る人もいます。幕間に食べるお弁当を楽しみにしている人も多いですね。あの幕間に狭い客席で食べるお弁当はなぜだか普通に食べるよりおいしく感じるんですよ。

松下さん ● 幕間にお弁当を食べるというのも歌舞伎ならではのすごく面白い習慣ですね。

歌舞伎の華・女方

斉藤先生 ● 歌舞伎の大きな特徴のひとつに「男性」だけで演じるというのがありますよね。みなさん、これについてはどう思いますか?

松下さん ● 女装してもキレイだったらいんじゃないですか。

小田さん ● 宝塚歌劇団の反対ってことだけですね?

松場さん ● とくに違和感を感じないですけど、確かに外国ではあまり聞かないですよ……。

斉藤先生 ● そうなんです。日本人は昔から性別に関して独特の価値観を持っている民族なんですよ。男装の麗人が好きだったり、歌舞伎の女方がもてはやされたり。

松下さん ● そういえば以前テレビで、宝塚歌劇団のアメリカ公演の番組を見ましたが、観客の感想で「なんで、男の役を女性がする必要があるのかわからない」とあって、「わかってないなあ」って思ったことがありました。

斉藤先生 ● そうなんです。日本人は、異なる性を演じる人から妖しい美しさを見出すんだと思います。魔性的な美しさだったといわれる三代目澤村田之助や、舞台に出たら相手役が惚れそうになったという五代目中村歌右衛門がいい例です。これらは、男性が女性を演じるからこそ、本当の女性よりも女性らしく、男性の理想の女性像を

演じられるのだと思います。そんな女方芸が400年伝承されているのですから魅力的ですよ。

歌舞伎の愉しみ方

松下さん ● 先生のお話を聞いて歌舞伎に興味が出てきたのですが、もし、観に行くとしたらどこに行けばいいですか?

斉藤先生 ● そうですね。せっかく京都にいるんだから、年末にある南座の顔見世に行ってみてはどうでしょう。

松場さん ● 顔見世ってなんですか?

斉藤先生 ● 江戸時代、歌舞伎役者は劇場と一年契約だったので、旧暦10月ごろに人気のない役者は契約を切られたり、新人と入れ替えられたり役者が交代したんで

す。そして旧暦11月に新しい顔ぶれで行う最初の興行が「顔見世」です。今は、風習だけは残っていて、南座は12月に、一年に一度の大きな興業として行います。有名な役者さんも多く出演しますよ。

松下さん ● 役者さんの顔を観に行くだけでも面白いかもしれませんね!

斉藤先生 ● 大阪なら、初春大歌舞伎が面白いです。役者の奥さんが出入り口でお迎えしてくれることもあるの、海老蔵が出てたなら小林麻央さんが見られるかも。

松場さん ● それは、スゴいですね! **小田さん** ● ところで歌舞伎の演

目っていろいろあると思うんですが、初心者が見に行くとしたらどんなものをお勧めですか?

斉藤先生 ● 「仮名手本忠臣蔵」がわかりやすいと思いますよ。江戸

時代実際に起こった赤穂浪士の討ち入りを、南北朝時代に置きかえた話ですが、夫婦や忠人の生き別れ、死に別れといった悲劇の話があつて感情移入して見られると思います。

松下さん ● お勧めの座席位置や公演日はありますか?

斉藤先生 ● 1階の1等席は迫力や臨場感があって面白いですよ。変わったところなら、南座の2階の2等席は席によつては舞台の袖で出待ちしている役者が見えます。

公演日は千秋楽の2〜3日前くらいが一番いいかと。逆に、公演開始の3日間は「三日御定法」といつて、避けた方がいいかもしれません。昔からこの3日間はリハーサルの抜いをされていて、台詞を間違つても、小道具が足りなくて

も、演出を変えても許されることになっていくんですよ。

小田さん ● 歌舞伎はすごく敷居が高くて堅苦しそうなのイメージがあつたのですが、初日から3日間は間違いOKとか緩くて、自分が行っても楽しめる気がしてきました。

松場さん ● 歌舞伎ってチケットが高いと聞くけど、バイト頑張つて行こうかなって思います(笑)。

斉藤先生 ● 一度行ってみると、話で聞くよりも引き込まれますよ。拍子木を打つだけでも、相当の技術が必要ですし、音楽や小道具、場面転換のスムーズさなど、役者の演技だけじゃないスペシャリストの技術が結集されて1つの劇を生み出しているのが伝わりますから。もちろん、幕間のお弁当を楽しむことも忘れなく(笑)。

史実と物語の狭間

図書館1階カウンター横に設けられた「特設コーナー」では毎月テーマを設定し、そのテーマに関連する図書を展示・貸出しています。

12月のテーマは「忠臣蔵」で、当館所蔵の忠臣蔵関連書籍等を展示予定。そこで今回は、歴史学部歴史学科教授・渡邊忠司先生にお話をうかがいました。

——忠臣蔵とは、どのような物語でしょうか？

江戸時代中期、実際に起こった元禄赤穂事件をもとに作られた物語です。赤穂藩主・浅野長矩と、旗本であり高家（※1）の筆頭でもある吉良義央の間で起こった刃傷事件は、武士だけでなく町人までが注目する大事件へと発展しました。発端は、幕府から朝廷への年賀の挨拶に對して、返礼に来る天皇の勅使・饗応役に浅野が選ばれます。その浅野の指南

役として吉良が選ばれました。吉良は指南役という立場から浅野に「指南料」を要求した

り、赤穂藩の名産品の塩の作り方を教えるよう強要したりと無理難題をふっかけ、それらが断られると間違った作法を教えるなど、嫌がらせを繰り返しました。浅野は耐え続けていましたが、元禄十四年（1701）三月十四日、勅使と將軍が対面する儀式当日、嘘の情報を伝えられていたため浅野は開始時刻を誤認したうえ、装束も間違っており、大衆の面前で大恥をかきました。怒りを抑えきれず江戸城内にある松の廊下でとうとう吉良を斬りつけます。殿中（江戸城内）で禁

止されていた抜刀、さらに勅使との対面という大切な儀式を汚したことに怒った將軍・徳川綱吉の命で、浅野は即日切腹。赤穂藩は取り潰しとされた一方、吉良は応戦しなかったことが殊勝だと何の罪にも問われませんでした。この結果を不服とした赤穂藩の家老大石内蔵助をはじめ、47人の赤穂浪士は、主家の敵討ちのため元禄十五年（1703）十二月十四日、吉良邸へ討ち入り、吉良を殺害。その結果、赤穂浪士は全員切腹、吉良家も領地没収の上、当主・吉良義周が諏訪安芸守のもとに預けとなり、信州高島城に幽閉されました。

——どれくらい史実に基づいて書かれているのでしょうか？

登場人物の名前や肩書きなど大枠は史実に基づいて書かれていますが、設定や登場人物の属性は大きく変更されているところがあります。

たとえば場面設定を見ると、ドラマや映画では江戸を中心に描かれていますが、実際は大坂と深く関係していました。

当時、各藩の蔵屋敷（※2）は大坂に置かれるのが一般的でしたが、京都に赤穂藩の屋敷があったため、赤穂藩の参勤交代などでは、塩の取引を通して信頼関係があった大坂の商家に泊めてもらっていたようです。そのような親交があったからでしょう、藩が取り潰された後、家老の大石は山科へ隠れ住む前に、まず大坂へ逃れてきました。これは大石が20代半ばに、赤穂浪士の一員である吉田忠左衛門と大高源五とともに、兵法の修業で大坂に来ていたため知り合いも多く、塩の取引を通して深く付き合い合っていた商人・天野屋利兵衛などに吉良邸討ち入りのための武器調達の協力を得ることもできたか

——忠臣蔵が文芸として人気が出たのはなぜでしょうか？

らでしょう。物語では藩が取り潰された後、江戸幕府を騙すため京都で芸妓たちと遊んで過ごす大石の姿が描かれますが、実際には大坂の商人の援助を得ながら、討ち入りのための準備を静かに進めていたと思われます。

それほど忠臣蔵が有名となり、今日まで人気があるのは、大坂町人の幕府への反発精神があったからだと言えるでしょう。この頃の大坂は、商業の中心地として栄えていました。しかし、大名に金を貸し、利子で儲けていた豪商・淀屋が、宝永二年（1705年）、諸大名の窮迫状況を救うため、幕府によって財産をすべて取りあげられたうえ、屋敷と土地は闕所（※3）とされました。それに伴い大坂の経済状況は悪化、大坂町人の幕府への怒りは膨らんでいきました。そのような中で、幕府への反発を示した吉良邸討ち入りは、大坂町人の怒りを投影するのに打って付けだったのでしょう。宝永三年（1706）

大坂の竹本座で元禄赤穂事件を題材とした人形浄瑠璃が上演されると、一気に爆発的な人気を博しました。

幕府への反発は、台本にも見られ、早野勘平という名で登場する赤穂浪士の一人は、腰元のお軽と恋に落ち、情死します。しかし、モデルである萱野三平は、浅野が吉良を斬りつけた一報を異例の早さで赤穂へ伝えた重要人物です。それを、あえて恋愛話に仕立てたのは、忠義など武士の秩序がすべてではないという一般民衆の叫びなのではないでしょうか。

江戸がまだ発展途上だった元禄時代、上方では町人を中心とした文化が開花していました。多くの人々に長く愛される作品『忠臣蔵』が上方で生まれたのはこの町人文化と赤穂浪士との深い繋がりがあったからでしょう。大石父子や、矢頭右衛門七らの墓が今も大坂に残り、天王寺の吉祥寺には、四十七士像を見ることが出来ます。世を動かした歴史的事件や文化を、画一化された江戸中心の視点ではなく地方の目線でアプローチすることは、新しい発見に繋がる有用な試みだと思います。

■注釈

※1 高家…儀式や典礼を司る、江戸幕府の役職。

※2 蔵屋敷…年貢米を保存したり特産品を販売するために藩が設置した倉庫兼家屋。

※3 闕所…財産没収の刑により所有者がいなくなった土地。

渡邊 忠司

1947年、生まれ。大阪経済大学経済学部卒、大阪経済大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。博士（経済学）。専門は近世徴租制度とその成立史、百姓成立の構造の解明、近世の村と百姓、町と町民の自治のあり方と特質。



Lynzo 名画座

AGATHA CHRISTIE'S
MURDER ON THE ORIENT EXPRESS

オリエン急行
殺人事件



SPECIAL COLLECTOR'S EDITION

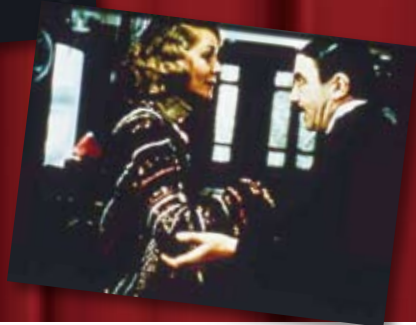
憎むべき殺人者が
それにふさわしい方法で
死の報いを受けた
そこで解決には二つの道がある

一九三〇年、ニューヨークのロングアイランドにある富豪アームストロング邸から幼女が誘拐され、身代金が支払われたにもかかわらず、殺害されるという事件が起こった。しかし、犯人の手がかりは掴めなかった。

五年後のイスタンブール。イギリス軍に関わる事件を解決した私立探偵エルキュール・ポワロ（アルバート・フィニー）は、ロンドンに戻るためオリエン急行の出発時間待ちをしていた。ホテルで食事をとっていた彼は、親友で鉄道会社の重役であるビアンキ（マーチン・バルサム）と再会する。二人が旧交を温めているところへ、係がやってきて二等寝台車に満室であると告げた。十二月だというのに満室であることに驚きながらも、彼らはオリエン急行が停車している駅へ向かうのだった。

ビアンキは、乗客を案内している車掌のピエール（ジャン・ピエール・カッセル）に向かって、ポワロのために客室を確保するよう交渉する。そこへアメリカの実業家ラチェット（リチャード・ウイドマーク）が秘書と執事を連れてやってきた。ラチェットの秘書マクイン（アンソニー・パーキンス）の上の寝台が空いているのを耳にしたビアンキは、ピエールにポワロをマクインと同室にすることを命じた。

翌朝、食堂車で朝食を済ませたポワロは、そこに居合わせたラチェットから、匿名の脅迫状が届いて殺すと脅迫されているから、



1万5千ドルで身の安全を守ってほしいと依頼される。しかし、彼は「私も生活や遊興の金に不自由はない。興味のある事件だけを引き受ける」と言い、依頼を断ってしまう。

ベオグラードの駅でビアンキから彼の客室を譲ってもらったポワロは、夜中に隣の客室からの叫び声で目を覚ます。ピエールが様子を見るために客室のドアをノックすると、「いいんだ。うなされただけだ」とラチェットの返事が返ってきた。そして、窓から外を覗くと雪で汽車が立ち往生していることに気づくが、今度はハーバート夫人（ローレン・バコール）が部屋の中に男がいたと騒ぎだした。

翌朝、執事のベドウズ（ジョン・ギールグッド）がラチェットの客室をノックしても返事がなく、ピエールがやってくるのと同時に、ポワロも通路に出てきた。そして彼はピエールに合鍵でラチェットの客室を開けるように言った。しかし、中からチェーンが掛けられており、二人がかりでドアをこじ開けたところ、ベッドで死んでいるラチェットを発見するのだった。

ピエールに案内されて現場に駆けつけたコンスタンチン医師（ジョージ・カラリス）がシーツをめくると、ナイフによる十二箇所もの刺し傷が見つかった。ビアンキは会社の威信にかけて、この事件をユーゴスラヴィアの地元警察には担当させたくないと言い、真相の究明をポワロに依頼する。そして、ポワロは一等寝台車の乗客たちを順に調べていく。一体犯人は誰なのか、なぜラチェットは殺されたのか……。

原作は、ミステリの女王とも呼ばれるアガサ・クリステイの『オリエント急行の殺人』（一九三四年、『オリエント急行殺人事件』）です。監督は『十二人の怒れる男』（一九五七年）、『セルピコ』（一九七三年）や『評決』（一九八二年）などの社会派作品で有名なシドニー・ルメット。音楽は『ニコライとアレクサンドラ』（一九七一年）などの作品を手掛けたリチャード・ロドニー・ベネットです。

この作品では、オリエント急行の乗客に扮して数々の名優たちが登場します。ショーン・コネリー（『アンタッチャブル』でアカデミー助演男優賞）、ヴァネッサ・レッドグレイブ（『ジュリア』でアカデミー助演女優賞）、ジャクリン・ビセット（『ブリッド』、『大空港』）、マイケル・ヨーク（『キャバレー』、『三銃士』といった大物ぞろいで、なかでもこの作品でアカデミー助演女優賞に輝いたイングリッド・バーグマン（『ガス燈』、『追想』で二度のアカデミー主演女優賞を受賞）が扮するスウェーデン人宣教師と、ローレン・バコールが演じるハーバート夫人の存在感が際立っています。

今回の余談は、アガサ・クリステイ原作による映画化作品についてです。この『オリエント急行殺人事件』のヒットに続いて、『ナイルに死す』（一九三七年）を映画化した『ナイル殺人事件』（一九七八年）では、ポワロ役がピーター・ユスティノフ（『スバルカス』でアカデミー助演男優賞）に変わりました。本作においても、

先生が選んだ
この一冊

『トータルで650点

私の英語修業』



若い時には読書をすべきです。本には人の人生を変える力があります。特に感受性の鋭い若い時に読んだ本が人生を左右する一冊です。

佛教大学の1回生だった頃、私は将来に大きな不安を感じ、何かを始めなければならないという強烈な焦燥感の中にいました。当時アメリカ映画が好きだった私は、アメリカでは多くの大学で映画学科があることを知り、留学できたらなあという漠然とした夢というか現実逃避のようなものの中に生きていました。

アメリカの大学に留学するには、TOEFLという英語の資格試験で500点をクリアしなければなりません。これはそうたやすいスコアではありません。そんな時に本屋で偶然この本に出会ったのです。

この本の裏表紙には「大学で英語専攻でもなければ留学経験があるわけでもない私でも650点をとれた」と書かれており（650点はほぼ満点のスコア）、それから英文科の自分なら500点くらい簡単に取れるのではないかと希望を持ったのを憶えています。

読み始めるとすぐにその希望は打ち砕かれました。著者の日野先生が中学校時代からひたむきに英語学習に取り組んでこられたことが書かれており、自分の甘ちゃろい学生時代との余りの落差に愕然とさせられたのです。

私はこの本から熱意を持つて生

デビッド・ニーヴン、ジャック・ウォーデン、ジョージ・ケネディ、ミア・ファローといった名優たち、そして、アンジェラ・ランズベリーやベディ・デイヴィスといった往年のスターも登場し、豪華なキャスティングになっています。続いて一九八二年には、『白昼の悪魔』（一九四一年）を原作とする『地中海殺人事件』が製作され、全編にコール・ポーターの名曲がフューチャーされています。ポワロ役は引き続きピーター・ユスティノフが演じています。彼はこの後も『死海殺人事件』（原作は一九三八年に書かれた『死との約束』）でも同じ役を演じましたが、前の三作とは異なり、アメリカで製作された作品が目立たないものでした。

このほかに、一九八〇年にはミス・マーブルを主人公にした『鏡は横にひび割れて』（一九六二年）を映画化した『クリスタル殺人事件』が製作され、ミス・マーブルにはアンジェラ・ランズベリーが扮したほか、エリザベス・テ일러、ロック・ハドソン、キム・ノヴァク、トニー・カーティス、エドワード・フォックス、ジュラルディン・チャップリンなどのスターたちが演技を競っています。

また、映画ではありませんが、イギリスのLWTが制作し、一九八九年からテレビで放映されている『名探偵ポワロ』（日本ではNHKが一九九〇年から放映）があります。ポワロ役は原作に最も近いといわれているデビッド・スーシェで、二〇一一年十二月までに六十五作品で活躍しています。

きることの大切さを学びました。熱意がなければ人生は空疎なものではありません。そして熱意は若者にのみ持つことを許された最強の武器なのです。

事実この本を読んで私は変わりました。それまでの甘えきった自分を徹底的に否定し、少しでも大学生当時の日野先生に近づこうと英語の勉強を開始したのです。英語学習への熱意はその後10年間ほど続きました。この本が私の人生を変えたとは言いませんが、きっかけを作ったのは間違いないこの本でした。

持留 浩二先生

（文学部英米学科准教授）

1970年、奈良県生まれ。佛教大学大学院文学研究科博士後期課程英米文学専攻満期退学。修士（文学）。専門はJ.D. サリンジャー、認知科学と文学の関係、進化心理学と文学の関係など。



著者：日野 信行

まえがき
プロローグ

- I. 只管朗読に明け暮れた日々 —— 中学時代
- II. 訳読の授業に反発して —— 高校時代
- III. 大阪で英語の武者修行 —— 大学入学から TOEFL まで
- IV. 法学部英語教育学科？ —— TOEFL から大学卒業まで
- V. 初めて海外へ —— 大学院留学時代
- VI. 英語の楽しさを教えたい —— 英語教員として
- 付録 リーディングについての若干の具体例

発行：南雲堂

最近流行している本や作家、印刷メディアや表現手法。いろいろありすぎて「知りたいけど、調べてもよくわからない!!」ってことがあるよね？ 私たち「さぶかる」では、そんな好奇心や疑問を解消するべく日夜活動してま～す。

サツカルチャー
de
読み解こう部

さぶかる!

暦が変わる!?
「暦」の歴史を見てみよう

時代の
移り変わりとともに
暦も変化するんだね

暦が変わるなんて
ことがあるの?!
ビックリ!!

昔は地域によって
暦が違っていたそうよ

平成 24年(2012年)
10月
23
火曜日
大安

暦ってなに？

暦とは、今日が「何年何月何日何曜日」であるかを知らせるもので、生きるうえでなくてはならない時間の物差しです。

しかし、「暦」という言葉には大きく三つの意味があります。一つは、太陽暦とか太陽暦といった暦法の意味。二つめには年・月・日・曜を含む暦のシステム全体の意味。三つめに一番身近なものであるカレンダー（頒歴）があります。

日本の暦の変遷

日本は古来、太陽や月の運行、年間の動植物の移り変わりを目安とする自然暦を用いていました。やがて、律令制による政治や租税の仕組みが整つと、正確な暦が必要になりました。しかし、当時の日本には正確で機能的な暦を作成する技術がなかったため、中国から輸入したのが元嘉暦（690）です。中国では王朝が変わるごとに、自分たちの支配を確かなものにする

在まで暦注として残っています。

「結婚式は大安の日を選ぶ」「葬式をするのは友引の日を避ける」などがその俗信のなごりでしょ。どこまで信じるかはみなさんの気持ち次第ですが、地球の外を巡る天体の運行がさまざまな形で私たちの生活に密着していることは、とてもファンタジックだと思いませんか？

るため、最新の技術を駆使した新しい暦を公布し、時間（暦）の支配をしていました。しかし、日本ではいくら武士が台頭しても、暦作成は京都の朝廷にある陰陽寮が独占。そのため技術革新など行われることなく、遣唐使廃止前に輸入した宣明暦を800年以上も使用することになりました。

で暦の改編が求められるようになります。その一人が、幕府の基方だった安井算哲（渋川春海）で、趣味で和算（日本式数学）や天文学を学び、宣明暦の矛盾や観測技術を用いて作られた優れた授時暦を知った彼は、幕府に暦の改正を訴えました。そうして、8年かかりで作り上げたのが初の国産暦法「貞享暦」です。陰陽師たちの激しい反発をしのぎ、新暦法として認められ、これを機に暦作成の権利が朝廷の陰陽寮から幕府の天文方へと移されました。

その後、宝暦暦、寛政暦と改訂を加えられ、最後の旧暦・天保暦はそれまでと異なる計算法で作られました。そして明治5年、現在使われている、太陽の運行をベースとしたグレゴリオ暦が採用され、現在に至っています。

もともと、平安時代から暦と占いは密接に関連していました。朝廷の陰陽寮は暦を作るよりもその日がどんな卦なのか、暦注を書くことが重要な仕事でした。貴族はこの占いを行動指針としており、朝起きるとまず、その日の吉凶をチェックし、どの方角から職場に向かうのか、それとも仕事には良くない日だから休むのか……など、現代人からすると馬鹿馬鹿しいくらい大まじめに占いを信じて生活していました。

江戸時代には庶民にまで広がり、「二十四節気」「七十二候」「二十八宿」など多くの占い方法が頒歴と呼ばれるカレンダーにかき込まれていました。しかし、明治になって暦注は俗習だからと禁止。ただ「六曜」だけはマイナーすぎて禁止されなかったため、現



『暦ものがたり』
（角川ソフィア文庫）
角川学芸出版、2012/8/25
岡田 芳朗（著）

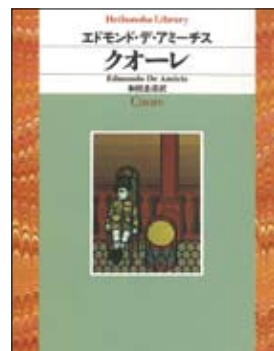
『天地明察』は
安井算哲の一生を
描いた物語
なんだって！





『クオーレ』より「母をたずねて三千里」

書物の魅力のひとつは、古今東西、さまざまな人と出会ったり、あるいは知らない時代や、行ったこともない世界に行くことができるのではないだろうか。このコーナーでは、小説の舞台になった場所を訪れ、主人公たちがたどった道を、みなさんと一緒に旅します。



『クオーレ』（平凡社）
2007年2月9日

1886年にイタリアで書かれた愛国小説で、筆者の代表作『クオーレ』。クオーレとはイタリア語で心（心臓）を指す言葉です。物語は小学校4年生の少年・エンリコ（エンリコ）の「1年間の学校生活を描いた日記」「両親から送られた手紙」「毎月学校で読まれる物語」の三部構成で、「毎月学校で読まれる物語」のなかのひとつ「アペニン山脈からアンデス山脈まで」が日本でも有名な「母をたずねて三千里」の原作です。

イタリアのジェノヴァにある良家の家で不幸が重なり、借金を抱えるまで落ちぶれたため、その母親はアルゼンチン共和国の首都ブエノス・アイレスに出稼ぎに行くことになりました。当時、ブエノス・アイレスは数年で大金が稼げると多くのイタリア人が出稼ぎに出ていました。しかし、1年経った頃、体調不良という手紙を最後に母親と音信不通になりました。心配した家族は方々に問い合わせますが何もわかりません。まだ13歳の息子・マルコはいても立ってもいられず、父親に「ボクが母さんを探しに行く」と言い出します。父親は無理だと諭しますが、マルコは粘り強く父親を説得し、とうとう承諾させました。

マルコはジェノヴァの港から多くの出稼ぎ者と一緒に、ジブラルタル海峡を越え、アルゼンチンへと27日間の航海に出ました。船の中では気のいいおじさんとも知り合いました。ブエノス・アイレスに到着し、親戚の家に向かいますが、親戚のおじさんは亡くなり、別の人が住んでいました。マルコが母の消息を探していると、近所の人たちが「母親がメキネス家で働いていたこと」を教えてくださいました。しかしそこには違う家族が住んでおり、メキネスはコルドバに引越したことを伝えました。マルコは2時間ほど歩き、ボカの街に到着、紹介してもらった協力者に会うためロサリオへと向かいます。しかし紹介してもらった協力者は不在で、

1ヶ月ほどは帰ってこないという。金もなく頼る人もなく、途方に暮れていると、ジェノヴァからの船で一緒だったおじさんと再会。いきさつを聞いたおじさんが、酒場でマルコのためにコルドバまでの電車賃を集めてくれたおかげで、コルドバまで行くことができました。コルドバでメキネスの家を訪ねると、トゥクマンにいると言われます。トゥクマンは、コルドバからさらに400〜500マイルもある遠い街でした。マルコが困っていると、多くの人足と一緒に牛馬を引き連れてトゥクマンに向かう商人がいると聞き、わらにもすがる思いで商人の元へ行きます。よくよく話を聞くと商人は別の町に向かうので、途中の分かれ道からひとり行くことになると告げられます。「どんな用事でもするから」と懇願してなんとか連れて行ってもらうことになりました。2週間以上、人足たちにいじめられたり熱を出したりしながら、分かれ道に到着。そこからトゥクマンまではたったひとりで1週間以上、野宿し歩き続け、体力を失い、足も血に染まりましたが、それでもただ母親に会いたい一心で歩き続けました。

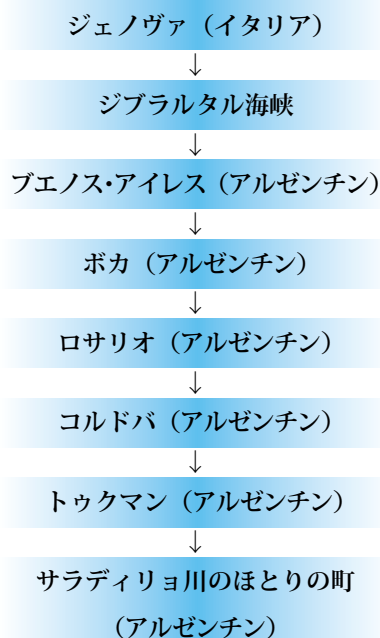
その頃、母親はトゥクマンの街から15マイル程のところにあるサラディリョ川のほとりの街で病の床に臥せていました。「家族と会うこともなく、ここで死んでいくのだ」と悲嘆にくれる母親にメキネス夫妻は「手術で治るから」とブエノス・アイレスから名医を呼び寄せてくれました。しかし、名医がいくら説得しても手術を拒む母親にメキネス夫妻も名医も困り果てていました。

そんなことを知らないマルコは、メキネスがサラディリョ川のほとりで砂糖工場を建設中だと聞き、最後の力を振り絞って歩き始めました。ようやくメキネス家に到着したマルコは、母親が病氣だと知り、母親の元に駆け寄ります。マルコを見たたん母親は飛び起き、抱きしめ、手術を受ける気力を回復しました。母親の手術は成功し、人々は途方もない距離をひとりやってきたマルコの勇気が、母親の命を救ったと褒めたたえました。



1880年頃のボカの港

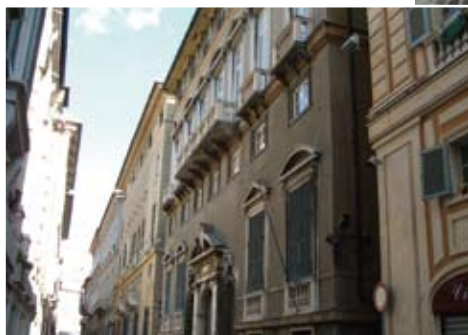
ルート



アルゼンチン共和国の首都、ブエノス・アイレス。建国以来アルゼンチンの政治、経済、文化の中心であり、南米の都市のなかでも有数の大都市。「南米のパリ」の名でも親しまれ、南米の中で最も美しい町のひとつとして数えられる。



ジェノヴァ県の県庁所在地、リグーリア州の州都でもあるイタリア有数の大都市・ジェノヴァ。海港を備え、古くから海洋交通の要衝として栄えた。現在、イタリアの最大の貿易港で、地中海有数のコンテナ取扱高を誇っている。2001年にはG8が開催地され、2006年にはレ・ストラーデ・ヌオーヴェとパラッツィ・ディ・ロッチが世界文化遺産に登録された。



イタリア王国の作家。イタリア北西部（当時サルデーニャ王国領）の町オネッリア（1923年よりインペリア市の一部）で生まれる。イタリア統一運動の時代に育ったアミーチスは1860年、14歳のときに、ジュゼッペ・ガリバルディの千人隊（赤シャツ隊）に志願したほどの愛国者であった（幼少として断られる）。代表作に、統一イタリアの子供の教育用に書いた愛国小説『クオーレ』(Cuore)がある。この作品の中の挿話短編「アペニン山脈からアンデス山脈まで」(Dagli Appennini alle Ande)が、日本では『母をたずねて三千里』のタイトルで知られている。

上高地の河童橋の上から、穂高の山脈を眺めながら、流れゆく梓川の水音に耳を傾けていると、思わず川辺において手をつけてみたくなりました。その流れは「あつ」と声をあげてしまふほどの冷たさでした。

明治から大正時代にかけて、幾度かこの地を訪れたイギリス人宣教師で登山家のウォルター・ウェストンは、大正二年（一九一三）八月六日の日記に



穂高の鋭い塔峰やぎぎぎしたやせ尾根が、樹間を通して見え隠れする。峠の下二百フィートにある小さい橋で休み、写真を撮ったり、履物を整えたりした。（中略）森林の中を快適に歩いたのち、二時三十分上高地に着いた。

と記し、その翌日河童橋で、第二高等学校（現在の東京大学教養学部）旅行部の学生たちと写真に納まっています。

また、芥川龍之介はこの河童橋にヒントを得て、主人公が梓川のほとりで、河童に出会い、これを捕まえようとして河童の国に迷い込んでしまうという小説『河童』を、昭和二年（一九二七）三月に発表しています。

三年前の夏のことです。僕は人並みにリュック・サックを背負い、この上高地の温泉宿から穂高山へ登ろうとしました。穂高山へ登るには御承知の通り梓川を渡る外はありません。

四季を読む 上高地の秋

しかし、現代ではこの川の流れに沿って、ウォーキングコースを散策することが出来ます。

上高地の秋は、九月下旬から十月にかけてのほんの束の間。カラマツの林が黄金色に染まり、まだ緑が残った山々や紅葉している木々とのコントラストを眺めながら、河童橋、ウェストン碑から田代池へと歩を進めていくと、都会の喧騒を忘れ、あの暑かった夏の日々が遠い日の出来事のように感じます。

大正四年（一九一五）六月の焼岳の噴火で、一夜にしてできたといわれている大正池。そこにある立ち枯れた木は白樺でしょうか。神秘的な水面を一層幻想的にみせています。この地をかつて「神河内」とも呼んだとする伝承は、いつ頃から始まったのかわかりませんが、「上河内」が初めて文献上に現れるのは、江戸時代のはじめの正保年間（一六四四～四八）のことです。

こうした上高地の魅力と印象を、劇作家であり小説家の吉田紘二郎は次のように記しています。

上高地の最も美しい季節は九月の下旬初雪のころである。山には淡雪がかかり、雪に隣する匍松、しらかばの森林地帯はもみじに燃え、上高地の草は青く梓川の水は白く、たまたま秋の落日が穂高のいただきに黄金の雲を揺曳せしむる時、真に上高地の美はきわまる。

わずかな秋のひと時、上高地の美しい自然に包まれて、忘れてかけていた大切なことを思い出しました。

*このページで紹介した本

芥川龍之介著『河童・或阿呆の一生』（新潮文庫）

ウォルター・ウェストン著・三井嘉雄訳『日本アルプス登攀日記』（東洋文庫五八六・平凡社）

吉田紘二郎ほか著『日本八景』（平凡社ライブラリー）



オマル・ハイヤーム著（小川亮作訳） 『ルバイヤート』

十一～十二世紀のペルシアの詩人、オマル・ハイヤーム（オマー・カイヤームともいう）が詠んだ四行詩集が、この『ルバイヤート』だ。いま手元にある岩波文庫版（昭和五十四年九月



改版23刷）は、初版が昭和二十四年に出版されており、日本最初の原典訳と銘打っている。しかし、わが国では、イギリスの詩人エドワード・フィッツジェラルド訳からの重訳が、すでに明治四十一年に蒲原有明によってなされており、その後出版された翻訳の多くはこのフィッツジェラルド訳に依っている。

この詩集を手にとったきっかけは、ペルシアという言葉に魅かれたからである。若い頃から地中海世界やイスラム文化に興味があつて、つい最近までその分野の本を集めていた。この『ルバイヤート』もそんな一冊だ。

詩人であるとともに数学や天文学にも精通していたオマル・ハイヤームの別の一面を垣間見ることが出来るのが、この『ルバイヤート』だ。

あわれ、人の世の旅隊は過ぎて行くよ。
この一瞬をわがものとしてたのしもうよ。
あしたのことなんか何を心配するのか？ 酒姫よ！
さあ、早く酒盃を持って、今宵も過ぎて行くよ！

若い頃は投やりな表現に惹かれたり、厭世的

な翳のあるものに魅力を感じたりするものだ。しかし、いま読み返してみると、杯に葡萄酒を満たして、酒姫の弾く琴の音色に酔いしれている男の姿に、何となく哀歓を感じるのは自分が年を取ったせいかもしれない。

この詩集にある詩の大半から、この世に生を享けた人間は必ず死ぬという無常と向き合っている、オマル・ハイヤーム自身の厭世観が窺える。それゆえに酒を飲まずにはいられない彼の心情を吐露しているといってもいい。言いかえれば享楽主義への転換とでもいうのだろうか。

若き日のオマル・ハイヤームはサマルカンドで、夜空に浮かぶ鎌のような三日月を眺めながら、酒姫の注ぐ美酒に酔いしれながら、現実と夢のはざまを生きていたに違いない。

つい最近まで、この『ルバイヤート』に出てくる酒姫を、酒場の女性と勝手に解釈して、自分も美しい女性を傍らにおいて、もの静かに琥珀色の液体を味わってみたい（実際はまったくアルコールが飲めないのだが）と思っていた。

ところが、平成二十一年九月に出版された岡田恵美子訳の『ルバイヤート』（平凡社ライブラリー）で酒姫は酌人（サーキー）と訳され、その注に「酌人（サーキー）は女性とは限らなかった。むしろ美しい少年に酌をさせる慣わしがあった」と記されていることを知って、いささか夢から醒めてしまった。

はなびらに新春の風はたのしく、
草原の花の乙女の顔もたのしく、
過ぎ去ったことを思うのはたのしくない。
過去をすて、今日この日だけすこせ、たのしく。

ペルシアといえば同じ頃、その宗教であったゾロアスター教のことが気になり、その研究者であった伊藤義教の論文や、翻訳された聖典『アヴェスター』を読んだりした懐かしい思い出として、『ルバイヤート』だけは手放さずに残している。フィッツジェラルド訳からの翻訳は、竹友藻風、矢野峰人のものがあるし、マッカーシー訳を重訳した片野文吉のものもある。

なかでもお気に入りには森亮による翻訳で、その訳詩集である『晩国仙果』に収められている文語体、口語体の二つの『ルバイヤート』は、独特の風趣があつていい。森亮にはこの他にも『白居易詩抄』や『ヘリック詩鈔』などの翻訳があつて、いずれも味わいがある。

秋の夜更け、『ルバイヤート』を紐解いて、遙かな異国に想いを馳せながら、エキゾチックな気分になるのも悪くない。

開館カレンダー

【開館時間】 9：00～20：00 ● 9：00～17：00 ● 15：00～17：00 ● 15：00～20：00

10月	11月	12月
1 (月)	1 (木) 休館日	1 (土)
2 (火)	2 (金) 休館日	● 2 (日)
3 (水)	3 (土)	3 (月)
4 (木)	4 (日)	4 (火)
5 (金)	5 (月)	5 (水)
6 (土)	6 (火)	6 (木)
7 (日) 休館日	7 (水)	7 (金)
8 (月)	8 (木)	8 (土)
9 (火)	9 (金)	9 (日)
10 (水)	10 (土)	10 (月)
11 (木)	11 (日)	11 (火)
12 (金)	12 (月)	12 (水)
13 (土)	13 (火)	13 (木)
● 14 (日)	14 (水)	14 (金)
15 (月)	15 (木)	15 (土)
16 (火)	16 (金)	16 (日)
17 (水)	17 (土)	17 (月)
18 (木)	18 (日)	18 (火)
19 (金)	● 19 (月)	19 (水)
20 (土)	● 20 (火)	20 (木)
● 21 (日)	● 21 (水)	21 (金) 休館日
22 (月)	● 22 (木)	22 (土)
23 (火) 休館日	23 (金)	23 (日)
24 (水)	24 (土)	24 (月)
25 (木)	● 25 (日)	25 (火)
26 (金)	26 (月)	26 (水) 休館日
27 (土)	27 (火)	27 (木) 休館日
● 28 (日)	28 (水)	28 (金) 休館日
29 (月)	29 (木) 休館日	29 (土) 休館日
30 (火)	30 (金)	30 (日) 休館日
31 (水) 休館日		31 (月) 休館日

※予定が変更される場合があります。図書館ホームページも参照してください。



後記 季刊『Lynzo』が発行されて2年目の秋。まさに読書するにはピッタリの季節となりました。図書館で静かに本を読むのもいいですが、涼やかな風に吹かれて、街歩きや小旅行を楽しむ時に、自分のお気に入りの一冊を連れていくのもいいものです。



季刊『Lynzo』 vol.9

平成 24 年 10 月 1 日発行
編集・発行 佛教大学図書館
〒 603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96
TEL 075-491-2141 (代) FAX 075-491-9042
<http://www.bukkyo-u.ac.jp/lib/index.html>

Popup lib ポップアップ リブ

特集コーナー

10月 方丈記の世界 ―完成 800 年記念によせて―

今年は鴨長明が『方丈記』を執筆し完成させてから 800 年。日本三大随筆のひとつとして、有名な『方丈記』は文学作品として「無常」を語るだけではなく、平安時代末期から鎌倉初期にかけての京都の様子を克明に描く記録文学としても、重要な作品といえます。今回は『方丈記』を単なる随筆文学としてではなく、鴨長明が生きた時代の記録として読んでもらえるよう、原典や研究書を展示貸出します。



11月 歌舞伎の世界

日本の古典芸能として、能とならんでよく知られているのが歌舞伎です。出雲阿国が創始したといわれ、江戸時代を通じて上方歌舞伎と江戸歌舞伎として隆盛を極め、現代に受け継がれています。今回の展示では歌舞伎の成立過程や作品をとおして、その舞台芸の伝統がどのように形づくられたのかを学ぶための図書を展示貸出します。



12月 忠臣蔵 ―史実と小説と―

かつて 12 月といえば、「忠臣蔵」が舞台上で上演されたり映画館で上映された時代がありました。元禄時代の太平の世に、主君の仇打ちをした赤穂浪士の物語は、すでに江戸時代中頃には浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』として上演され人気を博してきました。そして明治時代以降も戯曲や小説となって、語り継がれてきたのです。今回の展示では、史実だけではなく小説の世界から「忠臣蔵」の事件を題材とした図書を展示貸出します。

